

はしがき	i
第一章 西行和歌の生死観	1
第二章 道元の生死観	15
第三章 兼好の生死観	21
悟道者としての兼好	30
時への問いかけ	40
第四章 利休の生死観	44
日本人の生死観	44
利休の生死観	48
利休の賜死	51

第五章	沢庵の生死観	55
	生滅の循環論・生死の旅	55
	仏教と儒教の混融思想	60
	義と武士道ならび現代人の宗教観	69
第六章	鈴木正三の生死観	77
	はじめに	77
	死に習う	79
	死の想い——死を忘れるな(メモメント・モリ)	86
	むすび	89
第七章	才市の生死観	99
第八章	日本人と靈魂——柳田国男著『先祖の話』——	104
	柳田国男にみる靈魂観	104
	「牡丹灯笼」と北斎にみる魂の遊離現象	108

仏教・神道にみる霊の世界 109

第九章 山頭火の生死観 113

今、ここに生命を、永遠を 113

『修証義』とその実践感 120

至道無難禅師の影響 128

〈死をうたふ〉山頭火 130

第十章 仏教の根本にある生死の問題——『ブツダのことば』『歎異抄』—— 135

終章 真言密教の生死観——空海—— 155

はじめに 155

現代に語る真言密教の教え 159

むすび 197